シカ捕獲プロファイル

（九州局）宮崎北部森林管理署

1. 署の基本情報

① 署の基礎的情報

管内面積		32,357.15ha	
シカ生息密度		50頭/km2以上	
管内市町村数		9	
	R3	R4	R5
更新面積	0.00ha	36.08ha	18.45ha
人工造林面積	0.00ha	36.08ha	18.45ha
シカによる森林被害面積	2.99ha	2.16ha	0.00ha ※1
うち、人工林被害面積	2.99ha	2.16ha	0.00ha

② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	森林技術指導官 森林育成担当		
	R3	R4	R5
全職員数	25人	23人	23人
わな講習受講者数	4人	4人	3人 ※2
狩猟免許所持職員数	1人	1人	0人

③ 捕獲実行形態

			R3	R4	R5
職員実行			○	○	○
委託事業			○	○	○
わな貸出		協定	○	○	○
		協議会			
その他	協定	鍵貸与			
		除雪等			
		その他			
	協議会				

④ 協定・協議会数

			R3	R4	R5
わな貸出		協定	6	6	5
		協議会			
その他	協定	鍵貸与			
		除雪等			
		その他			
	協議会		4	4	4

⑤ 捕獲の方法、実施時期

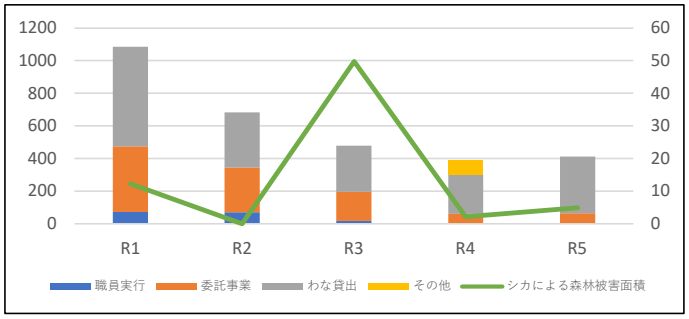
・ 捕獲の方法		R3	R4	R5
改良型わな等	小林式			○
	こじゃんと			
	その他			
くくりわな		○	○	○
囲いわな				
銃（モバイルカリング等）				

・ 捕獲実施時期	
職員実行	6月～3月
委託事業	7月～10月
協定	4月～3月

⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	無

2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移



		R1	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	職員実行	73頭	71頭	17頭	5頭	0頭
	委託事業	402頭	275頭	179頭	56頭	66頭
	わな貸出	611頭	336頭	283頭	241頭	346頭
	その他				90頭	
	計	1,086頭	682頭	479頭	392頭	412頭
シカによる森林被害面積		12.30ha	0.00ha	2.99ha	2.16ha	0.00ha

★森林被害対策のワンポイントアピール

①職員実行による捕獲

主に職員や行政専門員等により実施しているが、捕獲作業をする職員の減少により近年は捕獲実績も減少している。

②委託による捕獲

有害鳥獣捕獲に精通した業者による、主に笠松式くくりわなを使用し効果的な設置を実施しているが、委託事業予算の削減により捕獲区域や捕獲期間等を縮小して発注している為、捕獲実績も減少している。

※1 シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。
※2 当該年度にわな講習を受講した人数。

3. 署長が語る

【管内市町村との関係】

当署管轄内には2市5町2村あり、その内5市町村とシカ被害対策協定を締結しています。

また、市町村における有害鳥獣捕獲も、ほぼ通年を通して実施されており国有林野を含めた、シカ被害対策に積極的に取り組まれています。

【署独自の取組】

署独自の取組としては、森林官、及び行政専門員を主に職員による捕獲を実施していますが、近年、定年退職等により従事職員が減少しています。そのため、全職員を対象に有害鳥獣捕獲研修受講を呼びかけ、誰でも捕獲ができるよう取組を行っていますが、職員が減少する中、通常業務に追われ厳しい状況となっています。そこで、長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入し、見回り業務を効率的に行い、一人でも多くの職員が捕獲業務に従事できるように取り組んでいます。

シカによる森林被害対策としては、他署と同様に造林地や保護林等の周囲に防護柵やネットを設置し、造林木の食害防止や林内の下層植生回復を進めながら、シカ被害の多い箇所や捕獲後の処理等が効率的に行える箇所を選定して小林式を採用して実施しています。

【捕獲頭数が多い要因】

このような取組の中で、それなりの捕獲頭数を挙げている一番の要因としては、捕獲従事者の永年の経験からなる知識や技術によるものが非常に大きいと考えます。単にわなを仕掛けるのではなく、どの場所に、いつ、どのように仕掛けるのかで捕獲頭数に大きな差が出ています。

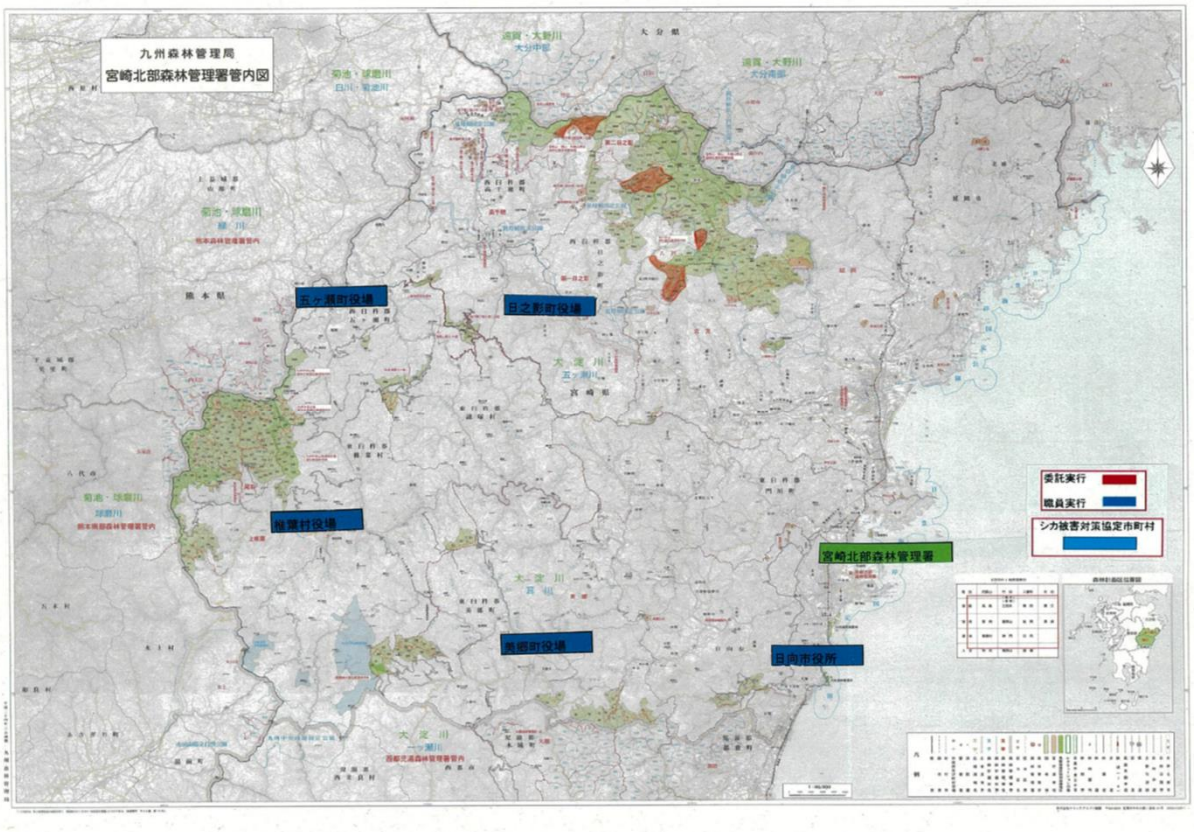
今後、国有林の職員も地域の猟友会等の従事者も減少していく中で、一層効果的な捕獲ができるよう知識と技術を学びながら、また、ICT等による捕獲も積極的に導入・活用しながら引き続き地域と連携した取組を進めていきます。

署長　中川　勝博

R5　九州局　企画官
R6　現職

管内図

別添ファイル参照



4. 職員実行

① 基本情報・トピック

わな講習受講者　3人
狩猟免許所持職員数　1人
実施職員の構成
森林官、行政専門員外

共同実施者の有無　無

★署として工夫していること、ポイント
長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入し、見回り業務を効率的に行っています。

② 安全対策

・見回り等について、必ず2名以上で対応しています。

③ 職員実行の流れ

実施期間・時期の決定

1年を通して実施しています。

実施場所の決定

造林地周辺、林道脇等など効率的に捕獲が可能な場所を選定しています。

わなの設置

「小林式誘引捕獲法」を採用しています。

見回り

森林事務所の現場管理業務と一体的に実施しています。

ボトルネック※3：1～2日毎に見回る必要があること

改善策※4：長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入

止めさし

ナイフかエレキブレード（職員実行）により実施しています。

処理・埋設

捕獲場所の周辺窪地に埋設しています。（土をかける程度）

前年度の実績（森林被害面積抑制、捕獲頭数増加）を更に伸ばすために予定していること

・長距離無線式捕獲パトロールシステムの追加導入を予定しています。
・行政専門員、職員OBや地元猟友会等の熟練者から学べる機会を年1回以上は設けたいと考えています。

※3 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。
※4 ボトルネックを解消するための方法です。

5. 委託事業

① 基本情報・トピック

応札者数　3（1事業あたりの平均）

★目標頭数の決め方

前年度委託事業の実績を基に、目標頭数を決定しています。

② 特記仕様書での工夫

特になし

③ 委託実行の流れ

実施期間・時期の決定

11月の狩猟時期前までに実施しています。

実施場所の決定

シカの被害が多い場所など効率的に捕獲が可能な場所を選定しています。

わなの設置

委託相手方の自社製品わなを使用するか当署に保管している罠を貸与しています。

見回り

二人一組で毎日見回りを行っています。

止めさし

頭を殴打後、ナイフ(従事者)により実施しています。

処理・埋設

捕獲地区ごとに事前に準備した埋設箇所へ埋設しています。
（埋設箇所は捕獲地区ごとに林況に支障のない箇所を選定し、重機により掘削しています。）

前年度の実績（森林被害面積抑制、捕獲頭数増加）を更に伸ばすために予定していること

・当署においては、シカ捕獲協定が数カ所あり、委託事業は基本的に協定地区以外で実施し、捕獲場所の棲み分けをしています。
・委託相手先によっては、自社にジビエ加工施設を持っており、埋設処理が省略されています。